

東京都隅田川におけるイベント開催の動向と開催時の検討事項 Trends in holding events in Sumida River Tokyo and considerations when holding events

○鈴木陸¹, 川名神威², 菅原遼³

*Riku Suzuki¹, Kamui Kawana², Ryo Sugahara³

Abstract : Although the Tokyo Metropolitan Government has been promoting the permanent use of the Sumida River, it has been transitory due to various problems. In this study, a literature survey was conducted to identify usage trends and 55 event organizers. Next, a questionnaire survey was conducted to identify issues in holding events and factors contributing to low satisfaction with the Sumida River environment, and the direction of future waterfront development was examined.

1. はじめに

近年、河川の利活用に対する社会的関心が高まっている。東京都では、「隅田川等における未来に向けた水辺整備のあり方」^[1]を策定し、隅田川の恒常的な利活用を推進している。一方で、必ずしも自治体や地域組織等による利活用の取り組みは一過性に留まっており、その要因や環境整備の方向性を検討する必要がある。

そこで本稿では、東京都隅田川におけるイベントの開催内容とイベント主催者及び連携団体（以下、イベント関係団体）を抽出した上で、イベント関係団体へのアンケート調査を実施し、イベント開催の動向と開催時の検討事項を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

Table.1 に調査概要を示す。対象地域は隅田川流域に位置する7区で行った。本稿では、河川法の規制緩和以降の2011年度～2023年度までの13年間の広報誌^[2]よりイベント内容の分類と変遷、各区のイベント傾向と回数、イベント関係団体を把握した。次いで、イベント関係団体にアンケート調査を実施し、取り組みを実施する上での課題点や隅田川の空間利用に関する満足度を捉えることで、開催時の検討事項を整理した。

3. イベント開催の動向

3-1. イベント内容の分類と変遷

Fig.1 にイベント内容の分類と変遷を示す。開催数に着目すると、年間の平均開催数は35回であり、2013年度の45回が最多であった。次いで、イベント内容ごとに分類すると、「ウォーキング」「清掃活動」「釣り」「自然観察会・勉強会」「乗船体験」「花火」「祭礼」「マルシェ」「夜間鑑賞」「その他」の10項目に分類できた。また、隅田川でのイベント開催は「乗船体験」が最多の120回確認できた。

3-2. 各区のイベント傾向と開催数

Fig.2 に各区のイベント傾向と開催数を示す。各区の

Table 1 Survey outline

調査1	調査方法	各区の広報誌を用いた文献調査
	調査対象	隅田川流域に位置する7区
	調査項目	イベント内容、開催日数、開催地域、イベント関係団体
	調査期間	2024年1月16日～2024年5月1日
調査2	調査方法	アンケート調査
	調査対象	広報誌から抽出した団体、隅田川サポーター所属団体
	調査項目	活動目的、課題点、隅田川の空間利用に関する満足度
	調査期間	2024年7月1日～2024年9月21日
有効回答数		65.5% (36/55団体) ※6団体は担当者が退職されたため回答不可

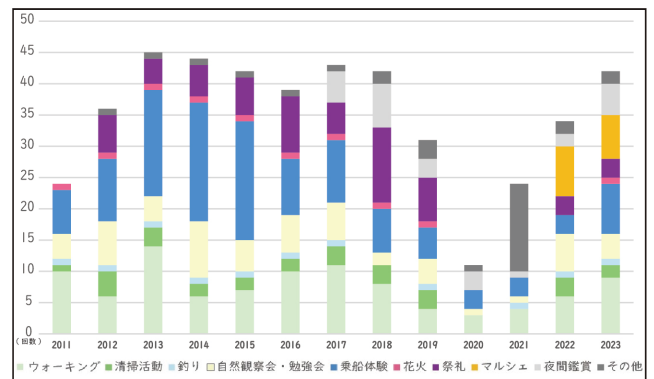


Figure 1 Event Content Classification and Transition

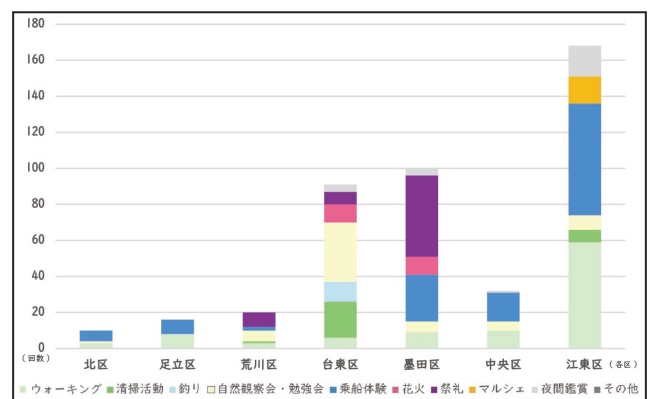


Figure 2 Trends and number of events held each ward

イベント開催数は、江東区、墨田区、台東区、中央区、荒川区、足立区、北区の順で多く開催されていた。特に江東区、墨田区、台東区では様々なイベント開催がみられた。一方で、中央区、荒川区、足立区、北区は回数もしくは内容が限定的な開催状況となっていた。

1: 日大理工・学部・海建 2: 日大理工・院(前)・海建 3: 日大理工・教員・海建

4. イベント開催時の検討事項

本稿では、イベント内容に応じて、ウォーキング、釣り、乗船体験を「水上・水辺活動型」、清掃活動、自然観察会・勉強会を「教育型」、花火、祭礼、マルシェ、夜間鑑賞を「娯楽・祭礼型」に分類した。

4-1. イベント関係団体の実態と分類

Table.2 にイベント関係団体の実態と分類を示す。広報誌や文献調査よりイベント関係団体を抽出した。その結果、55 団体が確認できた。隅田川におけるイベント関係団体は自治体、観光協会、民間団体、NPO・地域組織、大学機関の 5 団体に分類ができ、中でも NPO・地域組織が多く確認できた。

4-2. イベント開催における課題点

Fig.3 にイベント開催における課題点を示す。イベント開催における課題点として、①船着場の利便性が低い整備面、②集客が少ない、③財源・人材不足等の運営面、④組織内や他団体との連携面が挙げられていた。

4-3. 隅田川の空間利用に関する満足度

Fig.4 に隅田川の空間利用に関する満足度を示す。6 段階尺度の回答に 0~5 点を与え「整備面」「申請面」「環境・生物面」に分け、活動分類別に平均値を算出した。全体の傾向として、「水上・水辺活動型」「娯楽・祭礼型」が「教育型」と比べ満足度が低いことが確認できた。次いで、隅田川の空間利用に関する満足度が低い要因として、「整備面」では、船着場や水辺特有の活動を行うための利便性、飲食店の数、電源設備・水道・トイレ等のインフラの項目の満足度が低い傾向がみられ、自由記述では火器等の使用ができないことも挙げられていた。「申請面」では、隅田川テラスと船着場の両方を利用するイベントは満足度が低くなる傾向がみられた。その要因として、隅田川テラスは建設事務所、船着場は区管理、都管理等の管理者が異なるため使用申請が煩雑となっていることが考えられる。「環境・生物面」では、隅田川の水質や日陰の数の項目の満足度が低い傾向がみられた。

5. おわりに

本稿では、隅田川におけるイベント開催の動向と開催時の検討事項を整理した。その結果、隅田川では、江東区、墨田区、台東区を中心に 55 のイベント関係団体によって年間 35 回のイベントが開催されてきた一方、運営面や連携面の課題に加え、船着場等のインフラ整備、利用申請の煩雑さ、水質や日陰不足等の隅田川の空間利用に関する満足度の低い項目を抽出できた。今後は、これらの改善に向け、ハード・ソフトの両面で水辺整備の方向性を検討することが重要となる。

Table 2 Facts and Classification of Event Organizations

	自治体	観光協会	民間団体	NPO 地域組織	大学機関	累計
水上・水辺活動型	5	3	6	9	1	24
教育型	2	0	4	3	0	9
娯楽・祭礼型	3	0	6	8	1	18
累計	10	3	16	20	2	51

「水上・水辺活動型」：ウォーキング、釣り、乗船体験
 「教育型」：清掃活動、自然観察会、勉強会
 「娯楽・祭礼型」：花火、祭礼、マルシェ、夜間鑑賞

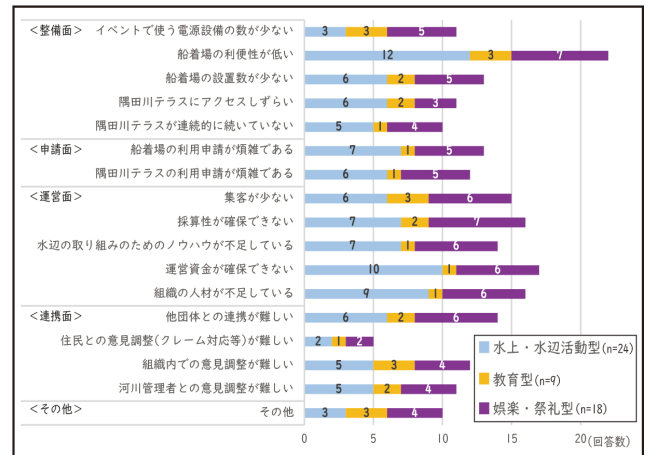


Figure 3 Challenges in organizing the event

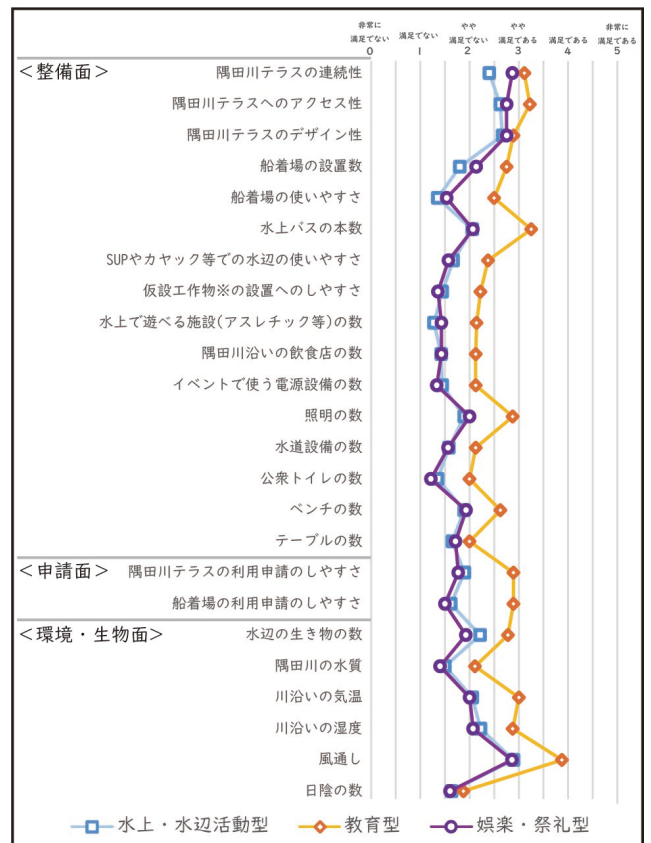


Figure 4 Satisfaction with river space utilization

参考文献

- [1] 東京都建設局：隅田川等における未来に向けた水辺整備のあり方，2023
- [2] 東京都北区，足立区，荒川区，台東区，墨田区，中央区，江東区：広報誌，2011-2023